2021 年度 社会福祉法人 高崎福祉倶楽部 事業報告

１．基本方針

社会福祉法人として「社会、地域における福祉の充実・発展」に寄与することを使命とし、基本理念である「生きる喜びを支えるケア」と「その人らしさを大切に一人ひとりの生活を支援する」の実現のため、基本サービスの質の充実、生活環境の向上を図ります。また、コロナウイルス感染の終息を見据え、様々な生活課題や福祉需要に柔軟に取り組み社会福祉事業の安定的・継続的経営に努めます。

２．介護保険改定の重点項目①～⑥

① 感染症及び災害対策（介護基盤の構築）

② 生産性の向上（会議や多職種連携における ICT の活用）

・ 多様な人材の活用（外国人技能実習生や留学生を含む）

③ ＬＩＦＥ（ＣＨＡＳＥ＆ＶＩＳＩＴ）の活用

④ 人権擁護、高齢者虐待の防止、身体拘束等の適正化、リスクマネジメント

⑤ 働き方改革への対応と職場環境整備（両立支援への配慮、ハラスメント防止）

・ 有給休暇の計画付与（年間 10 日以上の場合 5 日）

⑥ 規程類の見直し

⑦ 地域交流事業

・ 地域活動（介護予防体操）の再開

・ ホームページによる広報活動の継続

３．予算（借入金償還を含む）◆決算報告 ※別紙参照

４．会議計画

①	サービス責任者定例会議	月１回	各事業所の責任者
②	安全衛生委員会・危機管理委員会（①と同日）	月１回	各事業所の責任者
③	給食会議	月１回	各事業所の責任者

５．研修計画

①	職員研修（オンライン、zoom 等含む）	月２回
②	看取り・喀痰吸引の研修	年１回
③	感染予防、事故、身体拘束防止に関する研修	年４回
④	BCP（業務継続に向けたシュミレーション訓練も実施する）	
⑤	外部研修への参加 （※認知症介護初任者、実践者、リーダー研修等及び身体拘束防止、リスク管理等）	

６．修繕・購入計画

① 高崎拠点にて厨房設備機器入替、スチームコンベクションオーブンを購入。

７．職員採用

① 中途採用 経験者３名 （高崎 女性２名 みなみちょう 男性１名、）

② 中国人技能実習生（外国人特定技能を含む）１名の受入れ（1 名は先方の都合により中止）

◆実績報告

新型コロナウイル感染拡大防止のため平時の感染対策に加え、家族面会の制限（オンラインは実施中）、職員の検温、健康記録を中心に注力して参りました。ご家族様、職員と関係者の皆様のご支援とご協力のもと、入居者に感染することなく期末まで過ごせたことに感謝申し上げます。今期も更なる感染対策と新しい生活様式や BCP（事業継続計画）にも注力して参ります。

- ICT 導入による情報共有化と業務の分業化
  タブレット端末を使用しての記録、情報共有とＬＩＦＥへのデータ入力
  新型コロナウイル感染拡大の影響により今年度は対象者なし、内部研修はオンラインで実施
- 多様な人材の活用（外国人技能実習生や留学生を含む）　臨時理事会（書面）により承認
  介護福祉士養成校修学資金貸付制度の法人保証をした中国人留学生 2 名は、3 月末養成校を卒業し、介護福祉士試験に合格、みなみちょうにて 4 月 1 日付け正規採用
- 会議、研修ともにオンライン会議を含め概ね計画通り実施しました。
- 有給休暇の計画付与　概ね良好
- 地域活動としての介護予防体操教室は新型コロナウイル感染拡大により中止
- ホームページリニューアルにより問い合わせが入るようになったため今後もブログ等視聴いただけることを目指す

2021 年度 特別養護老人ホーム 悠ゆう 事業報告

2021 年度介護保険制度改正の重点項目となる口腔ケア、栄養管理、施設における看取り介護への取り組みは、ICT 活用により評価に繋げます。また、機能訓練、リハビリテーション、褥瘡予防、排泄ケアにつ いても一つひとつのケアの質を高めサービスの充実に注力して参ります。

◇特養・短期入所

＜目標＞

施設介護計画に沿ったチームケア(ICT 活用による情報の共有化)

＜実施計画＞

1. 基本的なケアの充実による自立支援(認知症、排泄、看取り)
2. 感染予防の強化(事業継続に向けた取り組み)
3. 生活歴を踏まえた住環境の整備と日常生活の充実
4. 会議や多職種連携における ICT の活用
5. 情報共有による科学的介護の推進による LIFF(CHASE+VISIT)の活用
6. 事故防止への取り組みとリスクマネージメントの担当者の選任
7. 機能訓練とリハビリテーション(ADL の評価、残存機能維持を目的とするレクリエーションの実施)
8. 口腔ケアによる口腔機能向上(経口摂取の維持、誤嚥、感染症の予後)
9. 栄養ケア計画の基づく栄養管理(低栄養、褥瘡の予防)
10. 人権擁護と高齢者虐待防止、身体拘束の適正化、ハラスメント防止
11. オンライン診療・相談の導入

＜実施報告＞

1.2.3. おおむね実施できた。

4. 情報共有ツールとして活用でき、家族やスタッフとの連連携がスムーズに行えた。会議や研修にも活用できた。
5. 制度的に未完成な為、手さぐりで行っている。
6. 大きな事故はなかったものの、事故件数の減少にならず、今後は、ヒアリハットを検証し大きな事故につながらないよう予防対策を検討していく。
7. 日常生活動作で残存維持をしているが不十分でレクリエーションの充実が必要である。職員のギター演奏による歌の会は、盛況で自分で移動できる入居者は、進んで歌の会に参加している。
8. 歯科衛生士の指導による口腔ケアは、スタッフの連携と共に誤嚥性肺炎の防止、入院者の減少につながっている。
9. ICT の導入で心身状況等の把握ができ共有する事で栄養管理評価が行えている。
10. 人権擁護、虐待防止、身体拘束の適正化等は今後も研修等を通じ啓発していく。
11. 支払い方法に課題がある為未実施。

令和３年度　デイサービスセンター青葉　事業報告

「住み慣れた地域で暮らす」を目標に通所介護、介護予防・総合事業を提供します。

＜目標＞

ご利用者一人一人に寄り添い、地域での暮らしが維持できるよう支援する。若年化傾向にあるため、認知機能の向上を目的とした運動・脳トレに力を入れる。

＜実施計画＞

１. 軽費老人ホーム、短期入所事業、居宅事業者やあんしんセンターと連携し新規利用者を獲得する。１日の平均利用人数 15 名を目指す。
２. 利用者のニーズに応え、短時間利用等柔軟に対応する。
３. 地域における認知度アップを目指し積極的な情報発信をする。
４. 地域活動「歌って笑って健康体操」の継続により地域住民との交流をはかる。
５. 手作り品の展示(販売)等による生きがいづくり。

＜事業報告＞

１. 居宅介護支援事業所と連携し新規 6 名獲得、1 日の平均利用人数 15 名を達成。延べ人数は前年比 11％増、平均人数 18 名を目指す。
２. 短時間利用にも対応し利用者増につなげた。
３. 青葉便りを作成しご家族に配布、大類中学校を訪問、又ホームページに載せ情報発信を行った。
４. 地域活動の「歌って笑って健康体操」手作り品の展示（販売）等の生きがいづくりはコ
ロナ感染防止の為自粛。

2021 年度　ケアプランセンター悠ゆう　事業報告

「住み慣れた地域で暮らす」を目指し、心身の状況や生活環境に応じ、適切な保険医療ならびに福祉サービスっを総合的かつ効率的に提供できるよう努めます。

≪目標≫

医療機関との連携強化による新規利用者の獲得

感染症対策の強化

≪実施計画≫

1. 近隣の病院(医療連携室等)、地域包括支援センターや地域の社会資源を活用したネットワークの構築、新規利用者の獲得（稼働率の維持)に努める。
2. 地域の一員として地域住民や周辺自治体との協調に努め、事業所の認知度アップを図る。
3. 常に最新の情報を得るため研修に参加し、事業所間の情報共有化を図る。

◆実施報告

1. 高齢者あんしんセンター等とのネットワーク構築により新規利用者 16 名の獲得となりました。
2. 新型コロナウィルス感染拡大の影響で地域活動の機会は得られなかったものの担当利用者様からの紹介により新たな利用者に繋げることができました。
3. 特定事業所集中減算は有りませんでした。各サービス事業所利用率は、80%を上回ることなく連携することができました。

2021年度　ケアハウス「グリーングラス」事業報告

その人らしく自立した生活ができる事を念頭に置き、自助、互助、共助及び公助の適切な組み合わせに留意し支援します。

＜　目　標　＞

ご利用者の意欲や体力向上に努めます。

＜　実施計画　＞

1. 個々の心身状況の変化に迅速かつ適切に対応するためご家族や担当ケアマネとの連絡、情報の共有化を図る。
2. 健康チェック（血圧、脈拍、体温、体重の測定）の月 1 回以上の実施と年 1 回以上の健康診断を促す。
3. 参加人数や時間等の工夫により感染症防止策を徹底し、介護予防体操や行事の開催に努める。
4. オンライン診療・相談の導入。

＜　実施報告　＞

1. 入居者の心身の状況変化を見守り、ご家族や担当ケアマネと情報交換を行い、適切な対応を心掛けました。

2. 健康チェックは計画通り実施。日頃からの声掛け、コミュニケーションを心掛け、必要に応じ傾聴を行い心配事の解消に努めました。

3. レクリエーションの内容により人数、場所を考慮し安全な開催に努めた。

4. オンライン診療などは、いつでも対応できるよう準備していますが、現在までに利用はありません。

２０２１年度悠ゆうみなみちょう事業報告

利用状況

年間平均利用率は、特養 60%、併設型短期入所実績なしでした。特養の結果については、昨年９月より退所者が相次ぎ、退所に伴う新規入所者の補充ができなかったことが要因と考えます。昨年度の目標である 3 丁目 3 番地ユニットの再稼働について達成できませんでした。併設型短期入所（事業）でも、再稼働できず、短期入所を特養の空床利用短期入所で対応しました。

２０２２年度は、「特養６ユニット満床」を最低限の目標とし、６ユニットの稼働が安定した上で併設型短期入所と連結特養ユニットの再稼働を目指します。短期入所は、併設型短期入所が稼働できるまで特養の空床利用で対応し、積極的に受入れます。具体的な数値目標として、４月～６月に５ユニット満床（５０床）７月～９月に６ユニット目再稼働（５５床)、１０月～１２月に６ユニット満床（６０床)、１月～３月に６ユニット満床と７ユニット目・併設型短期入所再稼働準備期間とします。

目標達成には、新規入所希望者の獲得と介護人員体制の整備、特に夜勤体制の整備が必要です。

現在の待機者は、前述の通り非常に少ない状況にありますが、昨年１０月からの広報活動の強化により、医療機関、居宅介護支援事業所からの入所相談が明らかに増えています。現在は短期入所の相談が大半を占めておりますが、長期入所へ繋がる可能性に期待し、また、併設型短期入所再稼働に向けて短期入所の受け入れを積極的に行っていきます。広報活動の有効性は実感しており、新規入所希望者の獲得に医療機関・居宅介護支援事業所等関係機関への定期訪問は継続、新規入所希望者の獲得に努めて参ります。２０２２年５月２５日現在、入所４３名、短期利用３名（５月４名利用)、待機者は５名です。短期入所者４名中２名区分変更申請結果を待って長期入所に移行予定、待機者５名中３名入所に向け準備されており５名入所予定となっています。

介護人員体制について、今後の介護職員入職予定は、４月に中国人留学生アルバイト２名が介護福祉士養成校を卒業し常勤職員として入職、５月には中国人技能実習生１名入職、８月には職員紹介の介護福祉士１名が常勤として入職予定です。夜勤体制の整備について、５月職員紹介により夜勤専従職員１名入職、新入職者の夜勤勤務開始時期を留学生は５月・６月、紹介職員は９月・１０月頃を予定していますが、介護経験のない特定技能実習生は、言語力・緊急時対応能力を判断し、１０月以降を予定しています。日勤・夜勤体制を再調整して７月又は８月の６ユニット再稼働を進めて参ります。

特養・短期入所

＜目標＞　チームケアを実践　～チーム協働でご利用者が安心・安全に楽しく生活できるように支援する～

＜実施計画＞

1　入居者の生活習慣や生活様式を把握し、個別のニーズに沿った支援を行う
2　事故や不安のない（安心・安全・楽しい）生活を実現する。
3　部署内及び各職種間で情報共有と連携を徹底し、チームケアを実践する。
4　サービスの平準化と質の向上のため職員研修や勉強会を実施する
5　地域との連携を密に行い、感染対策を講じて慰問、ボランティアを積極的に受け入れる

＜目標達成状況＞

チームケアの基本である部署内の状況共有に一部不徹底な状況がある。

1　アセスメントにより個別ニーズの把握に努め、対応（ケア）の徹底に努める。利用者、利用者家族からの生活相談、要望・苦情については迅速を意識して対応した。状態変化や変化するニーズへの対応が課題。

2　事故・インシデント報告が前年度同様多い状況。中でも知らない間にできた内出血や剥離の報告が多く、予測的介護の実践と共にチームケアを実践していく。

3　リーダー不在時に情報が伝わらないなど情報共有が不十分。また、担当者会議で決定したケアが実施されないことがあり、そのチェックが必要。

4　毎月、生活研究所加藤先生による研修（法定研修含む）を開催し、職員のスキルアップに努めている。

5　慰問及びボランティアの受け入れをコロナウイルス感染症が治まるまで中止としている。

＜次年度への課題＞

チームケアの基本である部署内の状況共有の徹底に努める。もう 1 年、同じ目標を掲げる。

1　ケアプラン立案の段階から現場職員と共に作成し、に基づく対応（ケア）を徹底し、実施のチェック体制を作る。また、変化するニーズをケアプランに位置づけ、対応（ケア）ができる体制を構築する。

2　部署内の情報の共有を徹底する。担当者会議の位置づけをしっかりと認識し効率的に実施する。ケアプランに基づくケアのチェックを実施する。

3　情報共有を徹底し、チームケアを実践する。

4　外部講師招聘を継続し、職員のスキルアップを図る。

5　慰問及びボランティアの受け入れにあたっては、状況により適正な対策を講じて受け入れを開始する。

部門別目標

機能訓練

＜目標＞　生活リハビリの充実

＜実施計画＞

1　個別に状態の把握に日々努め可能な限り自立支援を行う（1）自立支援を職員が理解し実践する。(2）ケアプランに位置づける。

2　余暇活動を充実させ日常生活に機能訓練を取り入れる（1）午前・午後の活動を日課に位置づける。(2）機能訓練加算の体制を整える。

3　日常生活に即した訓練（起立、歩行等）を行い、残存機能を維持する。(1）生活リハビリ、自主訓練プログラムをケアプランに位置づける。

＜年度目標期達成状況＞

生活リハビリを個別にケアプランに位置づけ実施することになっているが実施にあたっては徹底されていない現状がある。毎日の余暇活動も、ユニット毎に歌や塗り絵、ゲーム等を予定しているが実施できないことが多い。コロナ禍で慰問、ボランティアの受け入れができない中、デザートビュ

ッフェ、おやつ作りなどの行事を実施。

＜次年度への課題＞

生活リハビリをケアプランに位置づけ実施を徹底する。日課にレクや作業療法などの活動を取り入れるための業務体制を再検証する。

給　　食

＜目標＞　食べる楽しさへの工夫と経口摂取の維持

＜実施計画＞

1　摂食意欲が維持できる食事を提供し、経口摂取の維持に努める（1）医務、ユニット等チームケアの実施

2　誤嚥や誤飲等の事故の予防（1）ソフト食等嚥下食の提供（2）状態変化による食事形態の変更にユニット、医務と連携し、迅速に対応（3）食事変更に伴うカンファレンスへの参加

3　入居者とのふれあい（1）食事状況の立ち会い評価（2）定期的な嗜好調査の実施

4　適切な食事提供への研究（1）嚥下食の研究（2）栄養価主体メニュー（3）地域食材提供　（4）季節節感や生活感のある食事の研究

＜年度目標期達成状況＞

入居者の状態変化に伴う食事形態の対応は、医務、ユニットとの連携により迅速に実施できている。また、形態変更の場合は、管理栄養士が朝昼夕食事時間に状況把握をしている。

＜次年度への課題＞

嚥下食の研究を継続する。

医　　務

＜目標＞　健康維持と感染症予防

＜実施計画＞

1　入居者の健康管理及び自立支援（1）健康管理　（2）自立支援

2　ショートステイ入居者の健康管理（1）利用中の健康管理・相談と薬剤管理。

3　看護・介護の質の向上（1）職員への疾病と服薬についての研修の実施。（2）看取り・褥瘡予防・感染予防等、施設内研修会の実施。（3）事故予防と事故対応の研修の実施。

4　職員の健康管理（1）年 2 回の健康診断の実施。

＜年度目標期達成状況＞

概ね計画通りに実施できたが、感染対策や看取りなどの研修会の開催が不十分だった。特に看取りについては、今年度より加算を算定しているため、職員全員が要件等を十分に把握し、医師の指示の基、チーム一丸となり対象利用者を支える体制を強化する必要がある。

＜次年度への課題＞

感染症対策や看取り、身体拘束廃止、服薬、虐待など看護・介護技術向上のための研修会を定期的、

計画的に開催する。

2021 度　利用者情況（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）

特養　　（2022 年 3 月 31 日現在）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
要介護 1（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2（人）	2	2	2	2	1	1	1	1	1	0	0	0	13
要介護 3（人）	5	6	6	6	7	7	7	9	10	8	10	10	91
要介護 4（人）	24	24	23	22	22	20	19	19	17	19	18	17	244
要介護 5（人）	16	16	16	16	16	16	15	14	14	15	15	16	185
総　数	47	48	47	46	46	44	42	43	42	42	43	43	533
月別稼働率（%）	66	64	65	65	64	61	59	56	54	55	56	56	60
月別平均介護度	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1

平均稼働率：60%　　平均介護度：4.1

併設型短期入所事業（2022 年 3 月 31 日現在）

実績なし